

広義の失業率(U6)

趙 玉亮

広義の失業率の定義と意味

米国労働省は、一般的に用いる失業率だけでなく、より範囲が広い他の3種類の失業率も発表している(図表1)。そのなかで、「縁辺労働者」と「経済的理由によるパートタイム就業者」の数を含めた最も範囲が広い失業率は広義の失業率(U6)と呼ばれている。

労働市場の健全化と労働資源の利用度合いを測る上で、U6は重要な意味を持つと考えられる。特に、08年金融危機以降、労働市場の質的改善がなかなか進んでおらず、イエレンFRB議長が重視する労働指標の一つであることもあり、U6は市場から注目されている。

図表1 U3からU6までの定義

	分子	分母
U3	失業者	労働力人口
U4	失業者+求職意欲喪失者	労働力人口+求職意欲喪失者
U5	失業者+縁辺労働者	労働力人口+縁辺労働者
U6	失業者+縁辺労働者+経済的理由によるパートタイム就業者	労働力人口+縁辺労働者

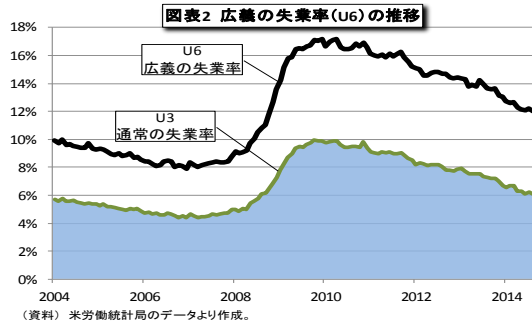
(資料) 米労働統計局より作成。

注 縁辺労働者とは、就業を希望する非労働力人口のうち、仕事があれば、すぐ就くことができ、過去1年間に求職活動を行ったことがあるが、過去4週間以内に仕事を探さなかったため、失業者とされない者である。求職意欲喪失者とは、就業を希望する非労働力人口のうち、適当な仕事がありそうにないため、現在仕事を探していない縁辺労働者である。

高い水準のU6

08年金融危機の影響を受け、U6は急上昇し、10年4月にピーク(17.2%)を迎えた後、低下に転じ、14年8月には12.0%と、リーマン・ショック以来の低水準となった(図表2)。しかし、06年から07年までの8%台の水準と比べれば、依然として高い。そのため、一部のエコノミ

ストはU6を労働市場の「大きな穴」と見なしている。



U6の改善要因

U6の変動は「失業者要因」「縁辺労働者要因」「経済的理由によるパートタイム就業者要因」の3つに分解することができる(図表3)。10年半ば以降のU6低下は、失業者数の減少が寄与しており、縁辺労働者と経済的理由によるパートタイム就業者の減少は、それに比べあまり寄与していない。つまり、縁辺労働者と経済的要因によるパートタイム就業者の減少は遅れており、このため、U6とU3のギャップはなかなか縮まらない。今後、米国の労働市場の回復が本物かどうかを占う上でも、「縁辺労働者+経済的要因によるパートタイム就業者」の減少が注目されるだろう。

